

ヒメイチゲ *Anemone debilis* Fisch. ex Turcz.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 13。亜高山帯に多い植物で、愛知県では生育地が極めて少なく、個体数も少ない。

【形態】

多年生草本。根茎は横にはい、紡錘状にふくらんだ所とくびれた所がある。根出葉は 5~12cm の柄があり、1 回 3 出複葉、小葉は倒卵状楕円形でほとんど無柄、深く分裂することはなく、粗い鋸歯がある。花茎は高さ 5~15cm、茎葉は 3 枚が輪生し、3 全裂し、裂片は線状披針形または披針形で分裂せず、鋸歯がある。花期は 4~5 月、茎の先端に直径 1cm くらいの花を 1 個頂生する。がく片は 5 枚で白色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (芹沢 51349, 1989-4-30)。1 カ所 (茶臼山) に生育しているだけである。

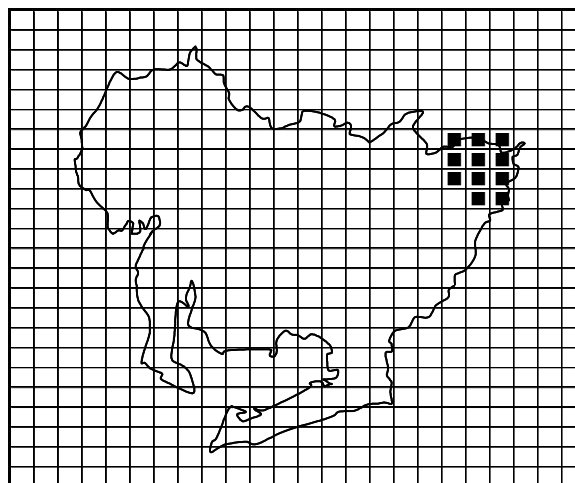
【国内の分布】

北海道および本州 (近畿地方以北) に分布する。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸北部および東北部、シベリア東部に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

落葉広葉樹林、亜高山の針葉樹林、高山のハイマツ林などの林内や林縁に生育する小形の早春植物で、夏には地上部が消失する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭い。過去には観光開発や牧場造成の影響で、大幅に減少したと思われる。

【保全上の留意点】

茶臼山は、愛知県の中では温帯性の植物が集中して生育している場所である。自然とのふれあいの場所を確保するという意味でも、これ以上の開発を避けるべきである。

【特記事項】

日本産イチリンソウ属の中では最も小型の種である。この属としてはあまり目立たない植物なので、調査の際には注意を要する。

【関連文献】

保草II p.232, 平草II p.69, 平新版2 p.136.